

(農)高原の里まき新規就農者がぶどう初収穫 (神石高原町)

【平成 30 年 10 月 18 日掲載】

神石高原町の農事組合法人 高原の里まき（組合員数 59 名，栽培面積 26ha（内ぶどう 80a））は，JA 福山市神石高原ぶどう部会の一員として，ピオーネとシャインマスカットを栽培しています。

平成 30 年度，法人に二人の新規就農者（姿沙織（すがたさおり）さんと熊谷祐一（くまがいゆういち）さん）が農の雇用事業により雇用されました。

姿さんは神石高原町出身で，県外で会社員として働いていましたが，この度，Uターンして法人に勤めることになりました。農作業のほか，これまでの仕事の経験を活かして，年々複雑になる法人の事務も任されています。また，姿さんは，農林水産省が行っている，民間企業と新しい商品やサービスの開発を行う「農業女子プロジェクト」に参加したいと考えています。

一方，熊谷さんは東広島市出身で，広島県立農業技術大学校でぶどうを学び，体験学習で法人へ来たことが縁で，就農しました。これまで大学校で学んだことを活かしながら，ぶどうと水稻の作業をしており，将来的には独立してぶどう栽培をしたいと考えています。

この 9 月，二人は就農後初めてぶどうを収穫しました。今年は猛暑で，果実が傷まないかと心配されましたが，大玉で品質の良いものになりました。9 月 17 日から JA へ出荷しており，県内リレー出荷のアンカー役を務めています。

同法人の構成員で，農の雇用事業の研修指導者でもある山内玉江（やまうちたまえ）さんは，「二人がやって来たことで，みんな若返ったよう。これからの産地と地域を委ねたい。」と話されています。



【熊谷祐一さん(左)と姿沙織さん(右)】